

館報 教育記念館

No. 94
令和2年3月 発行

第37回 特別支援学校
みんながんばってます
作品展



第50回
富山県造形教育作品展

主な内容

- ◎教育時評 「エレクトロニクスに魅せられて～子ども時代の出会いと体験から～」
C S ポート代表取締役社長 富山県教育委員 町野 利道 …… 2
- ◎後期恒例展
「特別支援学校みんながんばってます作品展」「富山県造形教育作品展」 …… 4
「富山県教職員厚生会退職厚生部富山支部作品展」
「富山県中学校美術展」「アイデアロボット展」 …… 5
「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」
- ◎わが校の歴史

★ 黒・宇奈月中学校	★ 黒・桜井中学校	…… 6
★ 黒・鷹施中学校	★ 黒・高志野中学校	★ 高・石堤小学校 …… 7
★ 氷・明和小学校	★ 氷・久目小学校	★ 氷・速川小学校 …… 8
★ 氷・西部中学校	★ 高・国吉小学校	★ 高・国吉中学校 …… 9
- ◎「学ぼう！ふるさと未来」支援事業実践活動報告会 …… 10
令和2年度の展示計画 あとがき



発行所／公益財団法人 富山県ひとつくり財団 富山県教育記念館 〒930-0018 富山市千歳町 1-5-1
TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001 E-mail: toyama@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp
(教育記念館会議室ご利用の場合 ☎ (076) 433-2770)
発行人／富山県教育記念館 館長 富田 利通 印刷所／いおざき印刷株式会社



エレクトロニクスに魅せられて ～子ども時代の出会いと体験から～

CSポート代表取締役社長
富山県教育委員 町野 利道

人間の記憶はどのくらいの年齢から残っているのでしょうか。幼少期の私はスコップや金槌を持って家のそばで何かをやっていたらしい。

祖母がどこへ行ったかと「利道、としみち」と呼ぶと、よく大きなスコップを持ってやっころと祖母の前に現れたそうです。

ぐらぐらと地面が揺れ、その祖母が右往左往していたのが動画のごとく記憶に残っています。1948年6月の福井地震で1才と5ヶ月のことです。

小学校時代は悪いことばかりしていて、先生に叩かれない日は無いくらいでした。

毎日叩かれているといろいろと工夫するもので、ほっぺたを叩かれる直前に口に空気をためて膨らませ、叩かれると同時に空気を出すと痛みが少なくなります。先生の方も手加減して叩いておられたと思います。その先生が青筋を立てて怒られたことがありました。友達が画いている絵に、私がちょっと手を入れた時のことです。

自分の基軸は「芸術家」と考えています。芸術とは作品を通して自分を表現することで、作り上げたものから町野が彷彿と出てくるものと考えています。製品の設計も企業経営も芸術的にと努力して来ました。

小学校3年生から6年生まで受け持ってもらった先生が、垂細垂美術展に入賞経験のある人でした。当時の先生方には宿直があって、月に何回か夕飯を済ませると、友達と一緒に学校へ行って夜の11時、12時まで図工を習い楽しみました。

絵を描いたり、粘土細工をやったり、焼き物をやる楽しみもありましたが、夜遅くなると先生が出前を頼んだラーメンを頂くのが目的だったかもしれません。

10才の頃に3年間もこんなことをやっていたので完全に身底に着いたと思います。今はあの世に居られますが私の一生の恩人です。

小学校5年生ぐらいから磁石に興味を持ち電気に関することを始め、お定まりの鉱石ラジオまで行き、中学生になると真空管を使った並四受信機にたどり着きます。

高校ではアマチュア無線技士の免許を取り、受信機や送信機を自作するようになります。

まさに電気少年です。

アマチュア無線には各地にクラブがあり、私も「富山クラブ」に入会し、大人の中に入っただけの付き合いが人生に大きな影響を与えました。

普通科で得られる電気の知識には限りがあるので、放課後は工業高校へ行って

電気の先生に教えを請いました。

「エレクトロニクスは東京だ」と東京電機大学に入学しましたが、当時電大の入学試験は二乗平均で順位を決めていて、全体の成績は悪いが数学、物理が得意な私にとってはとても良い制度でした。

そのころはエレクトロニクスも真空管からトランジスタへの切り替わり時期で、先輩達はトランジスタが分からないので、「こんなことも分からないのか」と言う叱責がありませんでした。お陰で我々の世代は自由に成長できたと思っています。

技術が進歩し、我々にはマイクロコンピュータが分からないという同じことが起きています。電気の世界も電気工学—電子工学—情報工学—メカトロニクスと幅が広がり、それぞれの分野の中でもどんどん細分化が進み、大変な情報量になって来ています。

これらの情報は多すぎて全部は身に付かないので、いきおい細部は省略してど

んどんブラックボックス化したものを勉強することになります。

理学は自然界の事象を理論化することであり、工学はその理論化されたものを使って社会に役立てることで、その意味では、学校では理論は教えますが社会のことは教えません。

生徒達は学校を出てから社会のことを勉強するとともに、仕事に必要な細部の知識について掘り下げますので、それを成し遂げるための『勉強する力』を醸成することが肝心と考えます。

また、保有能力が高くても発揮能力が低いと、世の中の為に役立って幸せになることは出来ません。

知識ばかり詰め込むのでは無く、健康な体をつくり集中力を高め、美しいものに感動し、人との関係を豊かなものとするため、基本としての体育や芸術の時間を増やすようにしたいものです。

自作したアンプの一例 ~原点は子ども時代の興味から~

「楽曲を奏でるのは演奏家であり、時間と空間を超えてその音を甦らせるのはエンジニアである。」



【20W+20W ステレオアンプ】

〈よりクリアな音をもたらすよう歪率を徹底して下げた〉



【9W+9W ステレオアンプ】

〈現在テレビをこのアンプで鳴らしているが音が明瞭になった〉



【4ch マイクアンプ】

〈これのおかげで非常にクリアな録音が出来ようになった〉



後期恒例展 ①



第37回 特別支援学校みんながんばってます作品展

10月25日(金)～11月10日(日)

県内の特別支援学校に通う皆さんの作品249点が一堂に会しました。日頃の学習を通して制作された感性豊かな作品が多く集まり、来場者を楽しませてくれました。残念ですが、今回をもって長く続いたこの作品展は、終了となりました。



第35回 富山県教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展

10月11日(金)～10月20日(日)

教員の退職後の生きがいづくりのために毎年開催しています。書画・写真・工芸・手芸など75点の力作を展示しました。退職後もそれぞれ趣味を楽しんでいる様子が伝わりました。



第50回 富山県造形教育作品展

11月16日(土)～12月1日(日)

幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校約80校から、それぞれの年代の個性あふれる作品、284点が集まりました。24日(日)には、県美術館エドゥケーターの瀧川織恵さんを講師にギャラリートークが開催され、大勢の人が集まり作品鑑賞の視点を学びました。



後期恒例展②

第15回 アイデアロボット展

12月7日(日)～1月12日(日)

県内の中・高・高専生が日頃の研究の成果として製作したロボットを一堂に展示しました。
また、1月12日(日)の「ロボット作り教室」には小学校4・5年生28名が参加し、紙コップすもうロボットを制作し、トーナメント戦を行いました。



第30回 富山県中学校美術展

1月24日(金)～2月9日(日)

県内全ての国公立80校の生徒による感性豊かな平面・立体作品201点を展示しました。
日頃の美術科の学習や部活動の中での制作された作品には、対象への迫り方、色合いや質感・構成等、個性があふれ、目を見張るものが数多くありました。



第13回 富山県版造形教育作品展・秀作回顧展

2月19日(水)～3月22日(日)

過去に当館で開催された「版造形教育作品展」の中から、平成12年から15年の優秀作品131点を展示しました。発達段階に応じ様々な技法で制作された個性豊かな作品が見られ、また、当時の図工科・美術科における素材や技法に加え、当時の暮らしぶりを作品から垣間見ることができました。



黒部市立宇奈月中学校



光をめざして

本校の前身は、昭和29年に創設された宇奈月町立黒部中学校です。昭和50年に愛本地区の生徒の入学・転学とともに宇奈月町立宇奈月中学校と改名され、現在の場所に新校舎が建設されました。平成18年に黒部市との合併により黒部市立宇奈月中学校となって現在に至っています。

部活動が盛んで、過去にはスキー部や女子バレーボール部が全国大会に出場しました。最近では、男女バレーボール部や女子バスケットボール部、アーチェリー部等が活躍しています。また、ボランティア活動も盛んで、特別養護老人ホームの訪問や各種募金活動等にも積極的に参加しています。

宇奈月中学校は、令和元年度末をもって閉校し、桜井中学校との統合により、新たに明峰中学校としてスタートします。宇奈月中学校の良き伝統を受け継ぎ、校歌にある「よごれにくみせず光をめざし」てほしいです。皆さんの活躍を期待しています。

黒部市立桜井中学校



統合による新たな校風を

昭和34年、本校は中部中学校と東部中学校との統合により設立されました。それから61年。閉校となる令和元年度末までに約14,000名の卒業生を輩出し、多くの方々が各界で活躍しておられます。

本校は、富山地方鉄道の荻生駅にほど近い田園地帯にあります。質実な気風があり、生徒は勉強や部活動をはじめとした様々な活動に一生懸命に取り組んでいます。その日々の積み重ねは、生徒たちに良い成長をもたらしています。校訓は「根気 勇気 元気」であり、生徒はこの校訓をもとに自分の生活を振り返り、各自の目標を立て生活を充実させています。

現在の校舎は、平成29年8月に新築されたものです。この校舎を使い、令和2年4月には宇奈月中学校と統合し、明峰中学校として生まれ変わります。これまでの伝統をもとに、新たな校風を築いていきたいと考えています。



黒部市立鷹施中学校



地域の方々に支えられて

本校は、昭和42年に海に近い黒部市立白鷹中学校と山の麓にある黒部市立布施中学校が統合して、黒部市立鷹施中学校として創立され、令和2年3月に、その歴史に幕を下ろします。鷹施中学校の「鷹」という字は、立山を開山したと言われている佐伯有頼の白鷹伝説に由来しており、本校のグラウンドから眺める僧ヶ岳や立山連峰の山々は雄大で大変素晴らしい風景です。

特色の1つとして、地域の方々に指導していただいている民謡部や三味線部の活動があります。特に地域に伝わる「新布施谷節」という民謡は、三味線部の生徒による生演奏と地域の保存会の方々の協力により、体育大会において女子全員が踊りを披露するのが伝統となっています。

4月からは、黒部市立高志野中学校との統合により、これまでのよき伝統や校風を継承しつつ、「黒部市立清明中学校」として、新たな歴史と文化を築いていくことになります。

黒部市立高志野中学校



脈々と流れ続ける合唱文化

本校の校風は「合唱文化」と言い換えることができる。昭和44年2月より、卒業生への感謝と旅立ちのはなむけの気持ちを込めて、在校生が自らの手で作詞・作曲を行う「卒業生を送る歌」の創作活動が開始され、途絶えることなくこんこんと湧き出る清水のように継承されている。

昭和55年頃からは合唱の形を取り入れており、混声四部合唱の曲も創られたことがあるが、現在は三部合唱が基本となっている。卒業式では、在校生の心がこめられた透き通った歌声に、3年生や教職員が大粒の涙を流して聴き入る光景が見られる。

合唱は本校生徒の精神的な支柱であり、集会に向けての合唱練習は、生徒同士の心を通い合わせ、仲間意識と強固な連帯感を育む潤滑油となっている。

この合唱文化が、統合する鷹施中学校の文化と融合しながら、確実に継承され、日々、生徒たちの心にたなびくことを願っている。

長い歴史に幕・閉校 東五位小に統合、なお校名は「五位小」に変更

高岡市立石堤小学校



心のふるさと石堤

「あゝむかし 小矢部川荒れ 石堤築き ふせぎけん」(旧校歌)

古代の村人は、川の流れの平穏を祈って水神を祀り、石の堤を築いた。その水神様を祀る神社が鎮座する土地の小学校として開かれた学校が、その後移転や統合を経て、明治25年10月1日に石堤尋常小学校と改称し創立された。

大正、昭和、平成を経て令和へと、石堤の人々の教育に対する熱い思いは今も脈々と受け継がれており、米作りやいもの栽培、わら細工などの体験活動を取り入れながら、地域と学校が一体となって子供たちの健全育成に努めてきた。地域の人々の懐かしい母校として、また、「心のふるさと」として仰がれてきた石堤小学校が127年の歴史を閉じる。

4月から子供たちは、小矢部川の橋を渡り、川向こうの学校へ通うことになるが、小矢部川の水神様も地域の人々と共に、今後も子供たちの安全と健やかな成長を見守り続けてくれることを願う。

氷見市立明和小学校



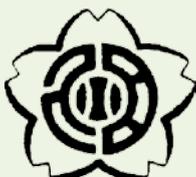
希望にもえて

昭和38年7月1日に、論田小学校と谷屋小学校が統合され、明和小学校となって57年間。校名「明和」に込められた思いを受け、子供たちは明るく和やかに励まし合って学んできました。「緑の丘に 光る窓」と校歌に歌われているように、緑豊かな高台に校舎があります。自然や地域の伝統文化に触れる体験が、素直な心を育みます。

いつも温かく協力を惜しまない地域の方や保護者の皆様に支えられてきました。今年度は特別に、地域の方が、「地すべり防災教室」「雅楽鑑賞会」等、子供たちと一緒に学ぶ機会をつくっていただきました。

「最後の年」のテーマは「感謝」です。自分を育ててくれた人、もの、こと、すべてに「ありがとう」を伝え、「ありがとう」の幸せエネルギーを大きな力にして、「西の杜学園」に進みます。校歌の「若い命進もうよ 希望にもえて 希望にもえて」の歌詞を胸に、新しい仲間と新たな一歩を踏み出します。

氷見市立久目小学校



新たな歴史を！「ふるさと久目」に誇りをもって

平成2年4月、池田小学校・岩瀬小学校の2校が統合して開校した久目小学校は、平成9年に赤毛小学校との統合を経て、令和2年3月の閉校とともに30年間の歴史に幕を閉じます。

氷見市の南西部に位置した校区は、上庄川が流れる里山に田園風景が広がり、豊かな自然環境や特産品等を生かした体験活動を行うための学習素材が豊富です。「子供は地域の宝」と捉えている地域の人々は、学校の教育活動に対して支援を惜しみません。

本校は、地域の協力を得て、ニジマスつかみどり、花鉢プレゼント、そば打ち等の特色ある活動を通じて、「ふるさと久目」に誇りを持ち、心豊かでたくましい子供が育つようにふるさと教育を推進してきました。令和2年4月から本校は、西部中学校・明和小学校・速川小学校と統合し、義務教育学校「西の杜学園」として開校します。県内初となる小中一貫校として、その一歩を踏み出して新たな歴史を築いていきます。

氷見市立速川小学校



ふるさと速川の愛に包まれて

速川小学校は、平成4年に床鍋小学校と小久米小学校が統合した学校です。全校児童28名は、**㊦**たらく子 **㊧**さしい子 **㊨**んがえる子 **㊩**かりあう子 を目指して仲よく元気に活動しています。

地域の方は子供を、学校をそれは大事にしてください。子供たちにふるさとのよさを感じてほしいという強い願いから、地元の特産品「ミオスギ」の苗作り、原木へのシイタケの菌打ち、虫送り、三世代交流稲作、わら細工教室、地元で採れる山菜や野菜を使った郷土料理教室、雪吊り体験教室等、様々な体験の場を提供していただきます。閉校を控えた今年度は地域の方も参加しての運動会での人文字、田んぼアートでの「I♡速川」、文化祭での歌の交流と一層地域の愛を感じる一年でした。

地域の自然に触れ、温かい愛に包まれて育った速川っ子には、県内初となる義務教育学校「西の杜学園」でも活躍することを期待しています。

氷見市立西部中学校



ふるさとを愛し、次代を生きる児童生徒の学園に

昭和29年に開校した本校は、72年の歴史に幕を閉じます。校区は里山に囲まれた田園地帯で、大伴家持や元号令和の考案者 中西 進 氏の歌碑等が多数ある万葉ゆかりの地です。

今年度は、「ふるさとを愛し、次代を生きる確かな力を身に付けた生徒の育成」を教育目標に掲げて教育活動に取り組みました。保護者や地域の方々に支えられ、「社会に学ぶ『14歳に挑戦』」では、起業体験活動として、校区の素晴らしさを紹介し、特産物を販売する活動を行っています。また、「一人一人を見つめ育てる」という基本方針のもと、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成に成果をあげることができました。

令和2年4月からは、校区3小学校と統合し、義務教育学校「西の杜学園」が開校します。全教職員による9年間を見通した確かな学力の定着や、「ふるさと教育」を基盤として外国語活動やICT教育の充実により、次代に生きる確かな力を育成する学園づくりを目指していきます。

長い歴史に幕・統合 新たに「国吉義務教育学校」に

高岡市立国吉小学校



地域の熱い思いに支えられ

本校は、明治41年に島崎小学校・高辻小学校・頭川小学校の3校が統合され、国吉小学校として誕生しました。以来、112年間に渡り、7,842名の卒業生を送り出してきました。

不幸にも、昭和22年4月6日未明に起きた火災により、校舎を焼失した際には、決して楽ではない生活の中、1人1日1勺の節米と、1人1日50銭の貯金を地域の方々が申し合わせ、校舎建築資金に充てられたと聞いています。おかげで、昭和23年の3月には、早くも新校舎が落成したのです。

令和2年4月より、国吉小学校は国吉中学校とともに「国吉義務教育学校」として新たなスタートを切ります。学校に対する熱い思いと、未来を担う子供たちの教育を大切にする思いは、今もこの国吉地区に脈々と受け継がれています。

高岡市立国吉中学校



県内初の義務教育学校へ

国吉中学校は、国吉小学校と隣接した立地を活かし、令和2年度から義務教育学校に改編し小中一貫教育を推進することとなっています。

本校は、昭和22年4月、国吉村石堤村2か村立北礪中学校として開校以来、校名の改称や国吉村の高岡市への編入等70年以上の歴史を積み重ねてきました。特に、現在の上皇、上皇后両陛下が昭和34年にご成婚された際、これを記念して杉苗1,000本を学校林に植樹しました。以後60年以上にわたって、全校生徒が地域の方々と共に学校林の保守管理作業を行っていることは他の学校にはない特色といえるでしょう。

現在、来年度開校の「高岡市立国吉義務教育学校」開校に向けて、運動会や学習発表会など様々な活動を国吉小学校と協力して行っています。また、学校のランドデザインや教育計画策定のため、小中学校の教職員が合同研修会を積み重ねています。築き上げられてきた歴史を土台に、新たなステージに向かって歩み出そうとしています。

「学ぼう！ふるさと未来」支援事業 実践活動報告会

令和2年2月13日(木)

※ 詳しい活動の様子は、財団ホームページに各校の実践報告書として掲載されています。

黒部市立村椿小学校

農作物の栽培と収穫、鮭の育成と放流等の活動から、ふるさとの自然環境を守り、維持していくことの大切さを学ぶことができた。



富山市立芝園小学校

「芝園Englishマップ」の制作とそれを介した紹介活動を通して、校区の魅力を見直し、コミュニケーション能力を高めることができた。



射水市立作道小学校

学習林の観察と整備、水辺の生態調査等の身近な環境に働きかける活動から、自然豊かなふるさとへの愛着を深めることができた。



高岡市立中田小学校

かかし制作や水辺のすこやか調べ等の活動から、地域のよさを学び、そのよさを受け継ぎ守ろうという気持ちを高めることができた。



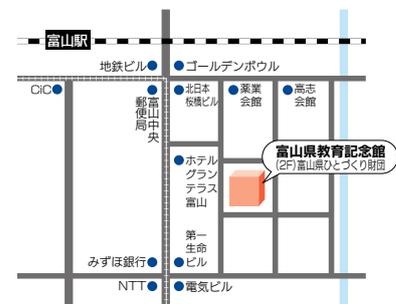
氷見市立比美乃江小学校

みりん干し作りやハトムギ栽培等、地域の食の恵を通じた学習を行い、ふるさとへの愛着と校区内の結びつきを深めることができた。



あ・と・が・き

世界の注目が集まる、2020年夏！いよいよ東京五輪・パラリンピックが開催される予定です。前回の大会をきっかけに、日本は大きく成長しました。56年ぶりとなる今回は、どのような変化が日本や世界に起こるのでしょうか。期待したいものですね。



令和2年度の展示計画

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| ◆企画展「肖像画で見る郷土の先賢」 | 4月8日(水)～5月24日(日) |
| ◆第11回「児童・生徒によるものづくり展」 | 6月3日(水)～7月5日(日) |
| ◆第18回「さんすうワールド展」 | 7月15日(水)～8月27日(日) |
| ◆第17回「子どもの目、自然不思議発見写真展」 | 9月2日(水)～10月4日(日) |
| ◆第36回「富山県教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展」 | 10月9日(金)～10月18日(日) |
| ◆第51回「富山県造形教育作品展」 | 11月14日(土)～11月29日(日) |
| ◆第16回「アイデアロボット展」 | 12月12日(土)～1月10日(日) |
| ◆第31回「富山県中学校美術展」 | 1月22日(金)～2月7日(日) |
| ◆第14回「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」 | 2月17日(水)～3月21日(日) |

富山駅
近く

会議室を一般の方に**安価**でお貸しして、打合せや趣味の活動などにご利用いただいております。
詳しくは教育記念館ホームページをご覧ください。
<http://www.t-hito.or.jp/reserve/index.html>

会議室をご利用ください！

